

心を込めたビスポーク靴が お客さまの人生を支える

ビスポーク靴とは足に合わせてオリジナルの木型を作り、全て手作業のハンドソーン・ウェルテッド製法で丹念に縫い上げる、世界にひとつの自分だけの靴。ちょっと値段は張りますが、メンテナンスしながら30年以上履き続けられる一生ものです。CEOの大川由紀子さんは、子どもの頃から人一倍靴に興味があり、20代で本場イギリスへ渡り靴のカレッジで学びながら、有名なJOHN LOBBの社長に手紙で直談判。日本人初の正社員となったパワフルな女性です。

要となる木型づくりにはお客さまの足の特徴を見極め、歩き方の癖を見抜く経験と想像力が重要です。イギリスには10年履きなれたビスポーク靴を車ごと盗まれた紳士が、「ロールスロイスは要らないから靴だけは返して。」と新聞広告で訴えたという話もあるほど、足に合った靴は価値のあるもの。木型に続く200あまりの手作りの工程を経て完成する1足は、お客さまを何十年も優しく支えるパートナーです。



趣味から靴職人を目指す人まで、マンツーマンで指導するワークショップ



木型はひたすらヤスリで削り出す

ここがすごい!!

良いものを作るための材料と工具へのこだわり

履きやすい靴は使い込まれた道具と選び抜かれた材料から生まれます。ワークショップ(BENCH WORK STUDY)でも、最初の作業は自分のナイフを研ぐこと。工具の中にはイギリスの職人が100年前から使っていたものもあって、今も現役。気に入ったものがなければ、自分で作ったり、本場イギリスまで発注することも多いそうです。履きやすく優れたデザインの靴は、こうした妥協のないこだわりから生まれます。



イギリスでお年寄りの職人が使っていた祖父から受け継いだ道具を大川さんが譲り受けた

縫い糸は麻糸を撚り合わせ蜜ろうとタールを染み込ませて自分で作る
磨き込めば顔が映るほどに輝く美しい靴

VOICE

もっと手を動かして手を使う生活の楽しさを味わおう



CEO大川由紀子さん

今は何でも機械化され手先を使う機会がないことがとても残念。頭で考えてもわからなかったことが、手を使うことでわかる。手を動かしていると、普段の生活にも別の楽しさが見えてきますよ。手は使えば使うほど器用になる、すごい可能性を持った器官ですから。

Bench Made

www.benchmade.jp

代表者 大川 由紀子
所在地 世田谷区成城6-5-25
第一住野ビル408号室
設立 平成7年(1995年)
主な事業 ビスポーク靴の製造、靴作り教室
(BENCH WORK STUDY)
連絡先 ☎03-3484-6133

